

FD 委員会活動報告: Sports Coaching Competency Test から評価した学生のコーチング能力

苅 山 靖¹⁾ 柴 田 紘 希¹⁾ 飯 塚 駿¹⁾

麻 場 一 徳¹⁾ 安 田 貢¹⁾ 森 幸 也¹⁾

Kariyama Yasushi¹⁾ Shibata Hiroki¹⁾ Iizuka Shun¹⁾

Asaba Kazunori¹⁾ Yasuda Mitsugu¹⁾ Mori Yukiya¹⁾

I. 背景

山梨学院大学スポーツ科学部では、2019年度より「スポーツ指導者コンピテンシーテスト (Sports Coaching Competency Test: 以下, SCCOT)」を導入し、学生のコンピテンシーに関するコーチング能力の評価に努めている (苅山ほか, 2020)。SCCOTは、日本のスポーツ界が求めるコーチの資質・能力である「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するためのテストであり、コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム (日本スポーツ協会, 2016)、グッドコーチに向けた「7つの提言」 (文部科学省, 2015)、さらにはコーチングに関する国内外の論文や書籍を基に、鹿屋体育大学において開発された (近藤ほか, 2019; 三輪ほか, 2019)。

本報告では、これまでに本学において実施したSCCOTの結果を優れたコーチの結果と比較することで、本学部生のコンピテンシーに関するコーチング能力の特徴について検討した。

II. 方法

1. 対象者

対象者は、山梨学院大学スポーツ科学部に所属する2019年度の1年生 (221人) および2年生 (192人)、2020年度の1年生 (209人) とし、男女合わせた合計622人であった (以下, YGU学生)。また、YGU学生の目指すべき目標値として、コーチ歴3年以上のコーチ (以下, グッドコーチ) のデータを用いた。なお、グッドコーチにおけるSCCOTの平均値は、SCCOTの作成者である鹿屋体育大学教育企画・評価室より得た。

2. 統計処理

SCCOTにおける得点は、平均値と標準誤差とし

て示した。本報告では、YGU学生の特徴について検討するために、グッドコーチの平均値に対するYGU学生の平均値の割合 (%) を算出した。具体的には、SCCOTの小項目に焦点を当て、割合が90%を下回る値 (グッドコーチに対して特に低い小項目) を“弱み”とし、100%を超える値 (グッドコーチよりも優れている小項目) を“強み”として扱った。

III. 結果

表1および図1には、グッドコーチおよびYGU学生におけるSCCOTの結果を示した。YGU学生はグッドコーチよりも、ほぼ全ての項目において劣っていることが示された。この結果から、YGU学生がグッドコーチと同水準の「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を身につけるためには、SCCOTの評価項目を全般的に向上させていく必要があると考えられる。本報告では、この大前提に基づきつつも、その中でも特に劣っている項目 (弱み) と、逆に優れている項目 (強み) から、YGU学生における特徴を検討した。

YGU学生の“弱み”として示された項目は、「小17: 個別に評価する力」、「小22: 役割を認識する力」、「小24: 合理的な戦略を立てる力」、「小26: 評価し把握する力」の4項目であった。それぞれの項目の説明としては、「小17: 個別に評価する力」とは『プレーヤー同士を露骨に比較して競争を煽るようなことはせず、個別の基準で取り組みや技能の変化を評価する能力のこと』、「小22: 役割を認識する力」とは『スポーツを通じたプレーヤーの成長支援やスポーツの魅力の向上といったコーチに課せられた役割・責任を果たす能力のこと』、「小24: 合理的な戦略を立てる力」とは『課題を分析し、限られた時間の中で解決すべき事項の優先順位をつけ、時には柔軟に計画を変更しながら、エビデンスに基づいた戦略を立てること』、「小26: 評

¹⁾ 山梨学院大学スポーツ科学部

価し把握する力」とは『プレーヤー、トレーニング内容・計画、コーチング内容等の評価を多面的かつ定期的に行い、個々人にあった課題設定とコーチングの改善に活かす能力のこと』である（近藤ほか, 2019; 三輪ほか, 2019）。「弱み」として判定された小項目の多くは、中項目である「中7: 考え抜く力」を構成しており、また、中項目の中でもこの「考え抜く力」は特にグッドコーチよりも低い割合であった（77.8%: 表1）。これらのことから、YGU 学生は、上記の4項目、特に「考え抜く力」に関連するコーチング能力が課題であり、その能力向上が優先事項と考えられる。

一方、グッドコーチの平均値よりも高値を示した項目も存在し、そのようなYGU 学生の「強み」としては、「小9: 主体的判断を促す力」、「小10: 自尊心を高める力」、「小11: 意見を調整する力」、「小15: ニーズを尊重する力」の4項目が挙げられた。それぞれの説明としては、「小9: 主体的判断を促す力」とは『コーチの思う型にはめることなく、プレーヤーの興味や考えを尊重して主体的な判断を促す能力のこと』、「小10: 自尊心を高める力」とは『プレーヤーの課題を指摘するばかりでなく、良かった点や主体的な取り組みを評価できる能力のこと』、「小11: 意見を調整する力」とは『意見の押しつけや闇雲な根性練習に走らず、プレーヤーと意見を調整して相手を理解した上で指導する能力のこと』、「小15: ニーズを尊重する力」とは『コーチの理想や期待よりも、プレーヤーのニーズや目的を尊重する能力のこと』である（近藤ほか, 2019; 三輪ほか, 2019）。これらの小項目の多くは、中項目の「中4: 主体性を引き出す力」を構成するものであり、また、YGU 学生は「主体性を引き出す力」を構成する他の小項目においても全体的に高い値を示す傾向にあった（表1）。これらのことから、本学部生は上記の4項目、特に「主体性を引き出す力」においては、すでに優れたコーチング能力を有している可能性が示された。

IV. 今後の課題

本報告で示された結果は、本学部生がコンピテンシーに関するコーチング能力を向上させていく際、その課題や優先度を考えるための判断材料となることが期待できる。しかしながら、今後、より効果的にSCCOTを活用していくためには、以下に関する継続した分析が必要になると考えられる。

- 1) 本報告では、1, 2年生という低学年を対象としたため、ここで示した特徴は、本学部における専門教育科目を学修しコーチング実践の経験が多い上

級生の特徴とは異なる可能性がある（近藤ほか, 2019）。本学部では毎年1年生および3年生を対象にSCCOTを実施予定であるため、今後は学年の相違による特徴を分析する必要がある。

- 2) 本報告は、異なる個人を対象とした横断的な分析であった。今後は同一個人の経年的な変化を縦断的に分析することで、本学部の学修効果や個々の学生の特徴を分析する必要がある。
- 3) 上述した横断的・縦断的な分析については、男女差、選択したコース（競技スポーツ、生涯スポーツ）の違い、所属クラブの有無や相違などの属性を考慮して分析し、より詳細な本学部生の特徴や課題を明らかにする必要がある。

謝辞

本報告および本学におけるSCCOTの実施は、金高宏文先生（鹿屋体育大学）および近藤亮介先生（現、兵庫県立大学）をはじめとする鹿屋体育大学教育企画・評価室の皆様にご多大なるご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

文献

- 荻山靖・神田忠彦・谷口裕美子・中垣浩平・安田貢・東山昌央・三本木温（2020）FD委員会活動報告：Sports Coaching Competency Test. 山梨学院大学スポーツ科学研究, 3: 31-32.
- 近藤亮介・濱中良・金高宏文・會田宏・伊藤雅充・土屋裕陸・久保田潤・渡部丞・松村直樹・石川純一（2019）スポーツ指導者コンピテンシーを可視化する客観的評価テスト（SCCOT）の開発. 日本コーチング学会第30回学会大会.
- 三輪一義・岩原文彦・金高宏文・藤本元（2019）シンポジウム日本ハンドボール学会第7回大会シンポジウム（2019年3月3日）ハンドボールにおける「アスリートセンタード・コーチング」とそれを実践できるコーチの育成. ハンドボールリサーチ, 8: 95-107.
- 文部科学省（2015）グッドコーチに向けた「7つの提言」
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/03/_icsFiles/afieldfile/2015/03/13/1355873_2.pdf（参照日：2020年10月26日）
- 日本スポーツ協会（2016）平成27年度コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」作成事業報告書. <https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/ikusei/doc/curriculum/modelcore.pdf>（参照日：2020年10月26日）

表 1. グッドコーチと YGU 学生における各評価項目の得点比較

評価項目の上位項目	評価項目	平均値		標準誤差		割合 (%)
		グッドコーチ	YGU学生	グッドコーチ	YGU学生	
-	大1：学習・活用力	5.21	4.87	0.06	0.05	93.4
-	大2：対他者力	5.06	4.66	0.06	0.04	92.2
-	大3：対自己力	5.38	4.60	0.06	0.04	85.5
大1：学習・活用力	中1：価値を見出す力	5.34	5.01	0.07	0.06	93.8
	中2：伝える力	5.18	4.68	0.07	0.06	90.4
	中3：学ぶ力	5.17	4.76	0.07	0.05	92.0
大2：対他者力	中4：主体性を引き出す力	5.01	4.40	0.06	0.05	87.8
	中5：多様性に対応する力	5.07	4.27	0.06	0.05	84.3
大3：対自己力	中6：変化する力	5.27	4.51	0.07	0.05	85.6
	中7：考え抜く力	5.41	4.21	0.06	0.04	77.8
中1：価値を見出す力	小1：価値を見出す力	2.20	2.07	0.03	0.03	94.1
中2：伝える力	小2：情報の価値を高める力	2.23	2.19	0.04	0.03	98.3
	小3：吸収力を高める力	2.48	2.36	0.03	0.02	95.3
中3：学ぶ力	小4：学びの対象を広げる力	2.10	2.02	0.04	0.03	96.0
	小5：気づきから学ぶ力	2.16	2.01	0.03	0.02	93.1
中4：主体性を引き出す力	小6：介入度を調整する力	2.17	2.08	0.03	0.02	95.8
	小7：客観的な根拠を示す力	2.37	2.29	0.03	0.03	96.7
	小8：多様な意見を尊重する力	2.17	2.16	0.04	0.03	99.4
	小9：主体的判断を促す力	2.16	2.24	0.04	0.02	103.8*
	小10：自尊心を高める力	2.23	2.26	0.03	0.02	101.4*
	小11：意見を調整する力	2.29	2.38	0.03	0.02	103.9*
	小12：自己の変化に注目させる力	2.59	2.33	0.03	0.02	90.0
中5：多様性に対応する力	小13：内的に動機づける力	2.41	2.24	0.03	0.02	93.0
	小14：自律を支援する力	2.14	2.14	0.03	0.03	99.9
	小15：ニーズを尊重する力	2.17	2.25	0.04	0.03	103.9*
	小16：独自性を尊重する力	2.39	2.20	0.03	0.02	92.2
	小17：個別に評価する力	2.42	2.01	0.03	0.03	83.0†
	小18：寄り添う力	2.47	2.45	0.03	0.02	99.3
中6：変化する力	小19：柔軟に対応する力	2.41	2.32	0.03	0.02	96.3
	小20：プレーヤーを優先する力	2.32	2.14	0.03	0.03	92.3
中7：考え抜く力	小21：出来事や感情を分析する力	2.07	2.04	0.04	0.03	98.5
	小22：役割を認識する力	2.35	2.03	0.03	0.02	86.5†
	小23：課題を設定し共有する力	2.64	2.55	0.03	0.02	96.6
	小24：合理的な戦略を立てる力	2.39	2.03	0.03	0.02	84.8†
	小25：試行する力	1.84	1.67	0.04	0.03	91.0
	小26：評価し把握する力	2.37	2.09	0.03	0.02	88.3†

*：100%を超える値（グッドコーチよりも優れている小項目）

†：90%を下回る値（グッドコーチに対して特に低い小項目）

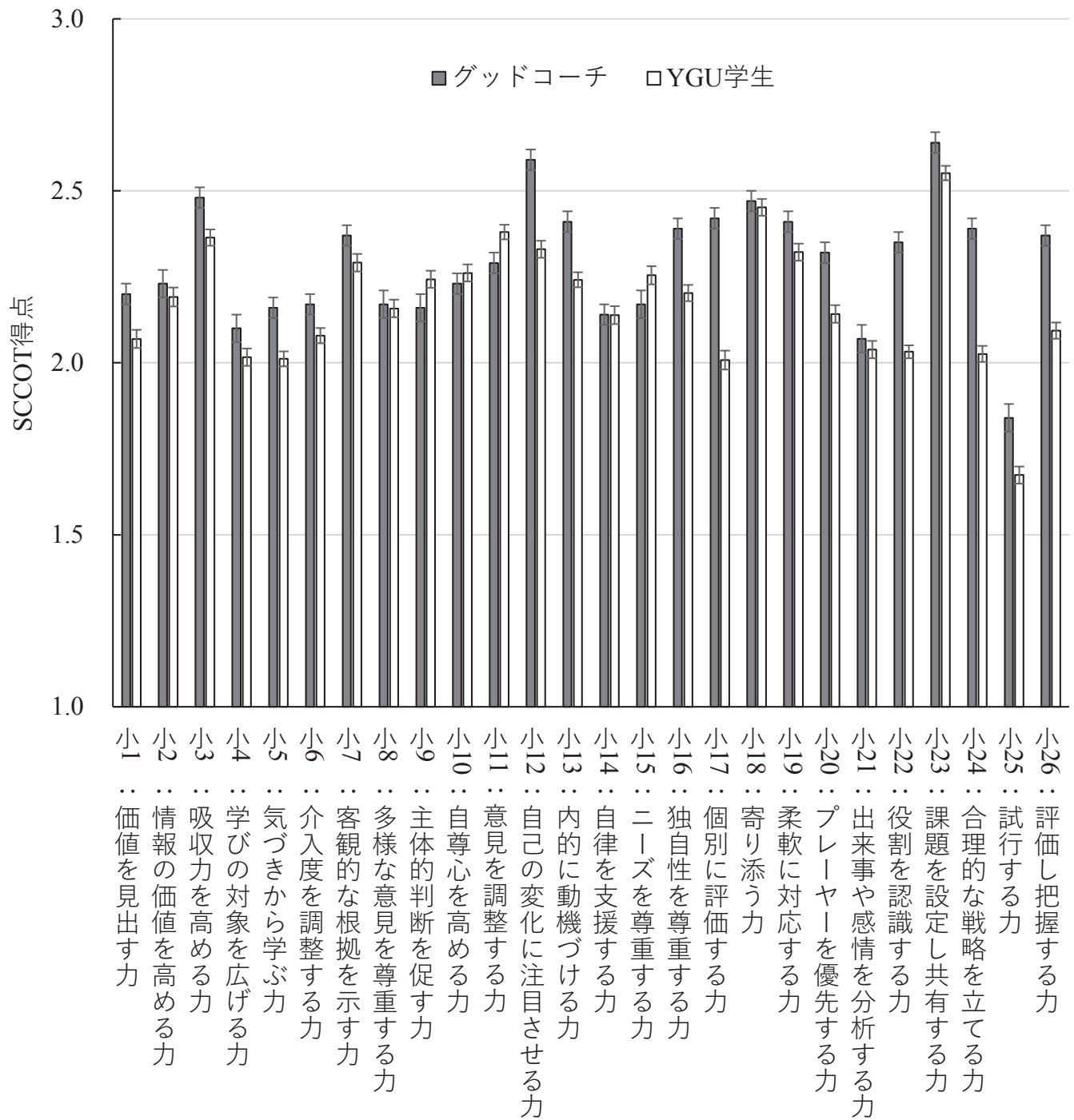


図 1. グッドコーチと YGU 学生における小評価項目の得点比較